

梅毒について

日本では1948年から梅毒の発生について報告の制度（1999年に制度変更）がありますが、年間約11,000人が報告された1967年以降減少していました。ところが2011年頃から報告数は再び増加傾向となりました。2019年から2020年に一旦減少したものの、2021年以降大きく増加しています。2022年には10月下旬の時点で10,000例を超える報告があり、注意が必要です。（感染症法上は第5類に分類されています）

■梅毒とは？

性感染症の一つとして知られており、梅毒トレポネーマという病原体により引き起こされます。主に性的接触により、口や性器などの粘膜や皮膚から伝播する性感染症です。感染後一度治っても再び感染することがあります。

●検査について

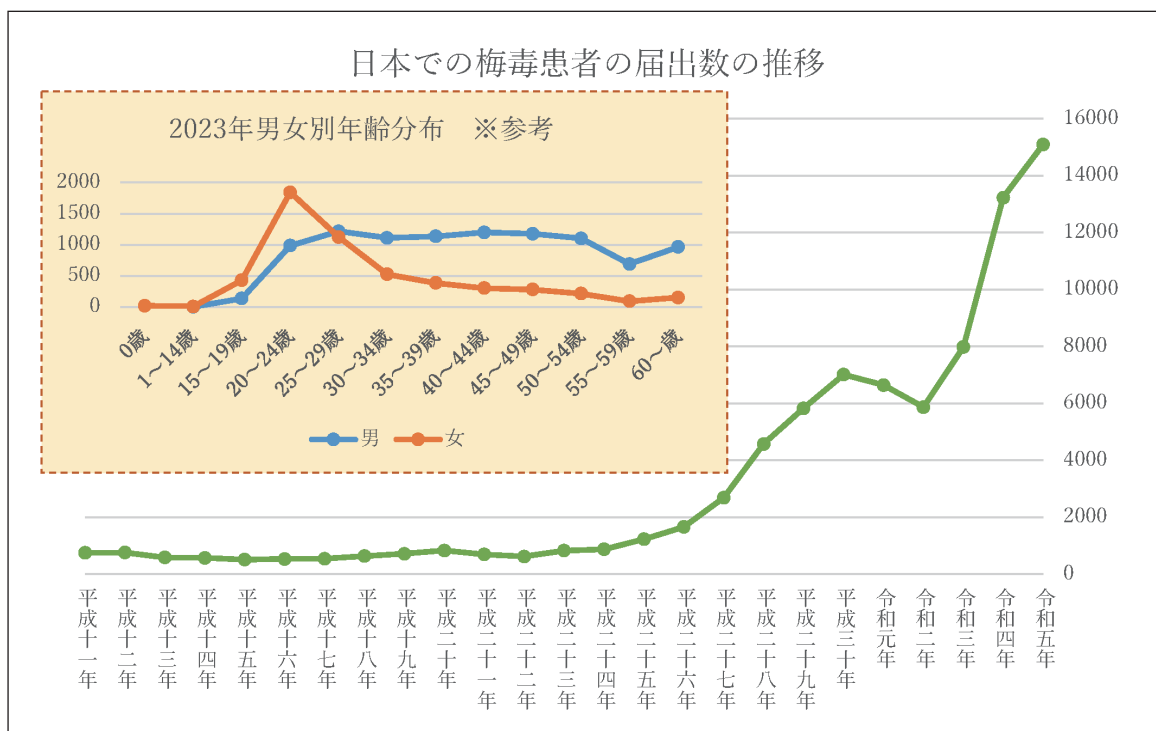
梅毒の検査は、血液を採取するだけで簡単に受けられます。男性は泌尿器科や皮膚科、女性は婦人科・産婦人科で受けることが可能です。また自治体の保健所・保健センターの多くで、無料・匿名で受けることができます。



匿名

■日本での感染状況

2011年ごろから増加している梅毒感染の届出数は、2023年度では42都道府県で前年よりも多く届け出がなされており、全国的に増加している傾向にあります。中でも東京都や大阪府など都市圏で、届出数及び人口10万人当たりの患者数が多くなっています。



【参考文献】厚生労働省性感染症 (https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/seikansenshou/syphilis.html)
厚生省 梅毒に関するQ&A (https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/syphilis_qa.html)

■潜伏期間と感染症状

梅毒は感染後、潜伏期間を経て症状が進行していきます。

●早期顕症梅毒第1期（感染後1～3週間）

- ・性器や口の中などの感染部位に小豆から指先くらいのしこりや痛みの少ないただれができる
- ・痛みやかゆみなどは無く、症状も自然に消える

●早期顕症梅毒第2期（感染後4～10週間）

- ・痛み、かゆみのない発疹が手のひら、足の裏、体中に広がる
- ・放置しておくとも第1期同様に症状が消える



第1期、第2期ともに上記の症状が消えても感染力が残っているのが特徴です。抗菌薬などで治療をしないまま放置していると、感染力を持ったまま症状が進行します。

●晚期顕症梅毒（感染後数年～数十年）

- ・ゴム腫と呼ばれるゴムのような腫瘤が皮膚や筋肉、骨などに出現して周囲の組織を破壊する
- ・大動脈瘤や大動脈弁逆流症などの心血管梅毒や、精神症状や認知機能の低下などを伴う進行麻痺、歩行障害などを伴う脊髄癆（せきずいろう）が出現する
- ・進行すると失明や死亡することもある

●妊娠中の感染について

妊娠中の梅毒感染は特に危険です。妊娠している人が梅毒に感染すると、母親だけでなく胎盤を通じて胎児にも感染し（先天梅毒）、死産や早産になったり、生まれてくるこどもの神経や骨などに異常をきたしたりすることがあります。生まれたときに症状がなくても、遅れて症状が出ることもあります。

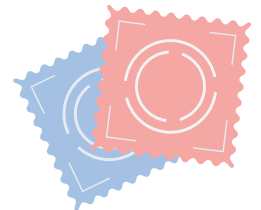


■治療・予防について

梅毒の治療には一般的に抗菌薬を使用します。パートナーがいる場合、同時に検査・治療が行われます。感染させないようになるまで治療し経過を見ますが、一旦治癒しても梅毒に対して免疫が獲得できないため他の感染症と異なり、再度感染するリスクはあります。

予防については梅毒に感染した人との性交渉を避けることが基本です。粘膜や皮膚が梅毒の感染部位などと直接接触しないように、また感染病変の存在に気づかない場合もあることから、性交渉の際はコンドームを適切に使用することが予防になります。ただし、コンドームが覆わない部分から感染する可能性もあるため、完全には予防することはできません。

潜伏期間が長く感染徴候が見られたら早い段階での検査、治療を行うことが感染を広げないためにも重要です。



【参考文献】 国立感染症研究所日本の梅毒症例の動向について (<https://www.niid.go.jp/niid/ja/id/1626-disease-based/ha/syphilis/idsc/idwr-sokuhou/7816-syphilis-data.html>)
発生動向調査年別一覧第5類 (<https://www.niid.go.jp/niid/ja/ydata/11530-report-ja2021-30.html>)
IASR Vol. 44 p187-189: 2023年12月号